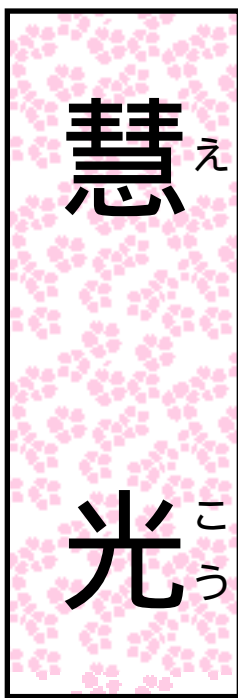




今が見頃です。境内地のソメイヨシノ (4月8日)



金光寺寺報
第154号
発行所 金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
5927番地
0982
83-2338

今月のことば

一切は縁において生まれ 縁においてあり
縁において去っていく (宮城 嶺)

仏教の根幹をなす思想の一つに縁起があります。仏教徒としての基本姿勢があります。初めの「一切は縁において生まれ」という言葉ですが、この世に命が誕生するためにはさまざまな多くの縁がなければなりません。私が生まれてくるためにも父母の両親がいなければなりません。先祖の一人でも欠けておれば、今の私は存在していないということになります。私がこの世に存在するということは当たり前のことではなく、とても不思議なことなのです。

次の「縁においてあり」という言葉は、この世の一切の存在はお互いにもちつもたれつに関係にあることを示しています。私がこの世に存在するのも私一人の力で存在しているのではありません。仏教のものの見方は、「私一人の力で生きているのではない、多くの命を犠牲にしなければ生きていけない私である、申し訳ありません」。ここに

そして、結びの「縁において去っていく」という言葉には、因果律、すなわちあらゆる現象には原因のない結果はあり得ないのだから、それを引き起こした原因が必ずあるという見方が示されています。

職場で安心して働けるのも、旅行が安心してできるのも、帰る家があってこそではないでしょうか。それと同じように、生きている時に帰っていく世界、帰っていく浄土が持てるということは、人生そのものが充実し安心できるものになっていきます。「縁において去っていく」のが仏教の説く因果の道理ですから、その縁を大切なものにしていかなければなりません。

(本願寺出版社刊「大乘」誌より転載)

仏事お休みのお知らせ

下記の日、緊急(葬儀)を除き、法事はいたしません。ご協力をお願いします。

- 5月 13日 高千穂組組会
- 6月 5日~8日 上洛(本山法要)
- 28日 女性の集い 前日準備
- 29日 女性の集い



ホームページ開いています。
URL <http://konkhoji.jp/>
4月9日現在 アクセス数 73,899人

老体にムチ打って、徳島まで車で行ってききました。一部フェリーでしたが、片道六時間(休憩なし)の運転ははじめても疲れました。往路は午後十一時五十分、フェリーに乗り、午前五時までは対岸に到着しても船内休憩できる。この便にしようとしたのですが、二時間ほどしか眠ることができず、途中で復路は息子が同乗して途中運転してくれました。フェリーで三時間の休憩を取ることでもできたのですが、もう二度と車では行きたくないと考えたことでした。でも、もう一度は必ず車で行かなければなりません。それまでに娘に運転免許を取らせたいと思っています。また徳島行きにあわせて高速道路のETCデビューをしました。料金所で「時速二十キロでETCレーンを通してください」とあったのですが、最初に通過した時は心配で時速十キロで通過。無事に通過できたときはほっとしました。でも、隣のレーンの女性運転手は私の顔をにやにや見ながらあつという間に追い越して行きました。(住職 松井卓郎)

住職ひとりごと

仏教用語豆辞典

自覚

一月十五日、成人の日。今年も多くの若者たちが、各地で成人式を挙げ、大人の仲間入りをしました。「国民の祝日に関する法律」によると、成人の日とは「おとなになったことを自覚し、みずから生き抜こうとする青年を祝

いはげます」祝日であるとされています。「自覚する」ということは、自分の地位・状態・価値などを知り、自分のあり方をわかまえることをいいます。また、自覚症状などというように自分で感じることを意味する日常語です。仏教では、「覚」は「さとる」ことです。自覚は「みずから覚ること」です。さらに、みずから覚るだけでなく、教えを説いて他人を覚らせることを「自覚覚他」といいます。これは菩薩の実践行です。

「大乘義章」に「覚行窮満、他の行が完全であるということですから、これは仏だと説いています。成人となられた皆さん、おめでとう。大人の世界は大変ですよ。がんばってください。(本願寺出版社発行 辻本敬順著 「仏教用語豆辞典」一〇〇ページから)

「発

心」

梅の花、桃の花は散りましたが、スイセン、レンギョウ、沈丁花、モクレン、こぶし、桜の花など、それぞれの花がそれぞれの色を發揮し、私たちの目を愛でてくれます。

日も次第と長くなり、まだ、気温の変化がありますが、すっかり春を感じることでできる季節になりました。

当山も娘が高校を卒業し、大学に進学することになり、その準備と移動で慌ただしい三月末からの数日でした。それぞれの家庭でも同じように慌ただしい時を過ごされたお家があったことでしょう。

そんな慌ただしい時ではありませんでしたが、息子が三月六日から十一日間の得度習礼に臨み、十

五日ご本山で得度式を終え、度牒をいただいて僧侶の仲間入りをしました。

また、度牒と併せて親鸞聖人のご著作『顕浄土真実教行証文類』(本典・教行信証とも略す)もいただき、親鸞聖人のお示しのもと、念仏往生のみ教えに帰依していくことも誓ったことです。

息子の場合、たまたま、お寺に生まれ、一般の人と比べれば、小さい頃から生活の中に阿弥陀さまの存在が身近にありました。本人はどうか分かりませんが、私の場合はそんなお寺という環境で生活することが嫌で、寺院の後を継ぐことが嫌でした。母に小さい頃から「お前は後を継ぐとよ」と言われ、いつの間にか後を継がなければならぬの

だとあきらめた思いを今でも覚えています。

ですから、息子もすんなりと後を継ぐ気持ちは持てなかったと思います。今回息子が得度してくれた、「発心」(仏門入門する気持ちは起こすこと)してくれました。とても感謝しています。

親鸞聖人は九歳で得度されました。ちょうど桜が咲き誇る時期のお得度だったようです。聖人の得度のときは、春の嵐で得度を明日に延ばそうとされたのですが、「明日あり」と思う心



のあだ桜 夜半に嵐の吹かぬものは」と歌を詠まれ、明日の命が保障されていない身であれば明日は得度ができないかもしれぬので、天候は悪くとも今日得度してくださいと思いを歌に託されました。

明日を保証されぬ無常の今を生きている私たちです。親鸞聖人ほどの覚悟は持てなくても、いつか必ず命終わる身である私です。とするならば、出家して仏門に入門する心(発心)は起こさなくても、この私の命の行く末をしっかりと引き受けてくださり、今を力強く生き抜く支えを与えてくださる阿弥陀さまのお慈悲に帰依をしていく、わが身をおまかせしていく心をいだきたいものです。

息子が得度の意義をこれからどれだけ感じていくのか分かりませんが、娑婆の縁つぎるまでに阿弥陀さまのみ教えに救われる身でよかったですと気づいてくれるこれからであればと願うばかりです。

法語の世界

〈原文〉

蓮如上人、折々仰せられ候ふ。仏法の義をばよくよく人に問へ。物をば人によく問ひまうせのよし仰せられ候ふ。たれに問ひまうすべきよしうかがひまうしければ、仏法だにもあらば、上下をいはず問ふべし。仏法はしりさうもなきものが知るぞと仰せられ候ふと云々。

(蓮如上人御一代記聞書 百六十六)

〈現代語訳〉

蓮如上人は、「ご法義のことは、詳しく人に尋ねなさい。わからないことは何でも人によく尋ねなさい」と折にふれて仰せになりました。「どういう人にお尋ねしたらよろしいのでしょうか」とおうかがいしたところ、「ご法義を心得ているものでありさえすれば、だれかれの別なく尋ねなさい。ご法義は、知っているそうにもないものがかえってよく知っているのである」と仰せになりました。

本堂内陣に御簾のご寄進

3月19日、本堂内陣の御簾を新調しました。匿名にてご寄進のお申し出をいただき、春彼岸入りの日に御簾の取り付け工事を行いました。新しい御簾にて彼岸会法要をつとめることができ、参詣され気づかれた方に美しいですねとお言葉をかけていただきました。紙面にてお礼を申し上げます。ご寄進いただきありがとうございました。



巻き上げた状態



おろした状態